



外来化学療法センター

京都府がん診療推進病院の指定を受けました。京都府がん診療推進病院は、国のがん対策基本法を踏まえた京都府がん対策推進条例に整備が定められています。現在、府内には厚労省が指定する都道府県がん診療連携拠点病院が2カ所、同じく地域が

京都府がん診療推進病院に指定 より一層質の高いがん診療をめざします

京都府民医連中央病院 事務次長 金岩孝也

ん診療連携拠点病院が7カ所、また京都府が指定する京都府がん診療連携病院が5カ所、同じく京都府がん診療推進病院が当院を含めて7カ所あります。推進病院は、それらの病院と連携しながら専門的ながん診療の提供や地域連携の推進に努めるとともに、がん診療に関する相談支援・情報提供等に取り組むことが求められています。

当院は、外来化学療法センターの開設（2010年10月）、緩和ケア病棟の設置（2011年10月）、大腸・肛門病センターの開設（2012年4月）、乳腺外科医師の拡充（4名）など、この間がん診療の整備に努めてきました。腫瘍内科医を軸に、消化器内科、呼吸器内科、消化器外科、乳腺外科、呼吸器外科、婦人科、泌尿器科など各科と共同した集学的ながん治療をすすめています。また、長年にわたってがん患者会との交流・連携を深め、がん治療に関わる様々な相談にも応じてきました。こうした実績を踏まえ、これを機にさらに地域の期待に応



緩和ケア病棟デイルーム

えられるよう、より一層質の高いがん診療をめざします。

また合わせて医師の後継者養成のための整備もすすめており、11月には新たに日本大腸肛門病学会認定施設の指定を受けることができました。同会の認定施設は少なく、京都府では当院を含めて9施設しかありません。今後は当院で一定期間所定の修練を行うことで、大腸肛門病学会専門医の資格を取得することが可能となりました。また、がん治療認定医機構認定教育施設に認定されましたので、がん治療認定医の教育も可能になりました。

2012年度上期 CO₂ 排出量 前年同期から9.7%削減

当法人は、府市条例でエネルギーを大量使用する大規模法人として、排出量削減計画等の報告の適用を受けており、年2回排出量集計を実施しています。2012年度上期は、化石燃料によるCO₂排出量が89トン（前年同期11.7%減）、ガスは692トン（同11.1%減）、電気は843トン（同8.31%減）、全体でCO₂排出量は1624トンで前年同期より175トン減少し9.7%削減できました。月別では4～9月までの全月で前年同月を下回り、特に5～7月は15%前後の削減となりました。

原発ゼロをめざす一環としても各事業所で引き続き、エネルギー節約を取り組みましょう。環境ポスター！ホームページも更新しています。

